

アマルフィ海岸

断崖に 神が戯れに創った小さな浜辺 ここに安住した海人は やがて地中海の覇者となった

ナポリからの車旅、
狭く曲がりくねった断崖の道を走ると、その街はありました。

それはまるで、
断崖の岸辺に、神が戯れにつくった小さな浜辺。

地中海を彷徨っていた古代の海人は、
小さな浜辺に、安住の地を見つけたのかも知れません。

数百年後、海洋貿易で栄えた街は、
アマルフィ公国をたて、地中海に覇を唱えました。

神が戯れに起こした奇跡に、
海人たちもまた、奇跡を起こしたのです。

まちあるきの考古学



サレルノ半島の断崖の海岸線を、アマルフィ海岸といいます。
半島はティレニア海に突きだし、北にナポリ湾、南にサレルノ湾を分け、ソレントやカプリ島、アマルフィ海岸など、世界的なリゾート地として知られています。

地質学的にいうと、サレルノ半島は隆起地形で、海岸沿いには断崖がつづいています。
所々にある破砕帯が浸食され、海岸流により砂浜が形成された場所があり、そこに、ポジターノやアマルフィといった、小さいながら歴史に名を残す海洋都市が生まれました。



ソレントからサレルノまで40キロに及ぶ海岸線は、コスティエーラ・アマルフィターナ (Costiera Amalfitana) と呼ばれ、世界で最も美しい海岸線の一つといわれています。
入り組んだ断崖の海岸線に沿って道が続き、レモン畑の間に小さな街が点在しています。



ポジターノ - Positano -

パステルカラーの明るい家々が、降りそそぐ陽射しの下で、折り重なるように連なる街。それはまるで、色鮮やかなパレットのようだ。



ポジターノの地形は、隆起断崖のサレルノ半島にあって、典型的な破碎帯の浸食谷です。アマルフィ海岸では珍しく、砂浜もみられます。

断崖の浸食谷といえども 人間の棲家としては、険しい崖に違いありません。パステルカラーの家々は、崖に張りつくように建ち並んでいます。日本では見ることのできない立体的な町並みです。



アマルフィ - Amalfi -



11世紀に最盛期を迎えた街は、その後急速に衰退しました。1131年にはノルマン人による征服、その後のピサによる略奪、そして、嵐により都市の大部分が破壊されたといえます。

それでも、アマルフィ大聖堂の荘厳さは、建造当時の繁栄をいまに伝えてくれます。

中世の海洋貿易は、莫大な富を街にもたらしたようです。

数多の大理石やガラス細工は、いったいどこから運ばれてきたのでしょうか。



アマルフィの街は、まるで迷宮です。

路地と家々が重層的に入り組み、空と海と山と人の暮らしが折り重なる街。彷徨よい歩く来訪者は、やがて自らの場所を見失ってしまいます。

都市の繁栄に伴い、膨張を続けた街は、なんの計画性もなく、思いつくままに、山を駆け上り、迷宮を創り上げたようです。



イタリアの海事関係の旗には、歴史に刻まれた4つの都市国家の紋章が組みこまれています。ベネチア、ピサ、ジェノバ、そして、アマルフィ

9世紀以降、イタリア半島に現れた4つの海洋貿易都市国家の旗が、いまも誇り高く縫い込まれているのです。

これらのうち、最初に地中海貿易の覇権を握ったのが、アマルフィでした。